

テニスのサービスゲームに関する研究

－ユニバーシアード・ベオグラード大会から－

A study about the service game of the tennis

－From Universiade Belgrade meeting－

宮 地 弘太郎*

Kotaro MIYACHI

抄録

テニスにおいて数あるショットのうち、試合の主導権を握り、かつ勝敗を左右するのがサービスである（田邊ら, 1994）¹⁾。また、サービスは唯一自分から攻撃できるショットである。（宮地, 2008）の世界トップレベルの主導権を握るショットに関する研究や、（表ら, 1973）の研究からも、サービスの良し悪し、サービスサイドの優位性が勝敗を左右する要素であるといえる。このことから、サービスゲームをキープすることが勝利するには重要課題として挙げられ、特に 1st サービスの確率が重要な鍵を握るのではないかと考えられる。今回研究対象とされた、大学生トップレベル（ユニバーシアード・ベオグラード大会本戦男子シングルス）においては、1st サービスの確率が高い方が試合を有利に進めていることが明らかになった。今後、日本の大学生ももっと普段からサービスの練習に時間を割くことも必要であると考えられる。しかしながら、この結果が全ての選手にあてはまるとは今のところは言えない。今後の課題として、他のカテゴリーにおいて同様の結果が得られるか調査してゆきたい。

Abstract

1 whose it is service (Tanabe et al. and 1994) to get into a position to dictate the run of a game and to control victory or defeat among shots in tennis with number Moreover, service is a shot that can be only attacked from me. (Miyachi and 2008) It is possible to say. From this may win when it is an element for the quality of service and domination on the service side to control victory or defeat from the research (table and 1973) and the research on the shot that drinks and takes the leadership of sei top-level field. Especially service probability important key grasp think this time research object do university student top-level Universiade Belgrade rally war mens singles service probability high one game advantageous advance clarified future Japan University student more usually service practice time spare necessary think as a result all player apply at present say future tasks other category

* 関西国際大学人間科学部

comparable result obtain investigate.

序 論

テニスにおいて数あるショットのうち、試合の主導権を握り、かつ勝敗を左右するのがサービスである（田邊ら，1994）¹⁾。また、サービスは唯一自分から攻撃できるショットである。サービスには、1st サービスと 2 サービスとがある。一般的には、1st サービスではボールスピードを求め、2st サービスでは安定性が求められる。また、世界トップレベルの主導権を握るショットに関する研究においても、（宮地，2008）サービスと、フォワーハンドの割合が高いことから、サービスの良し悪しが勝敗に影響するのではと考える。

また、サービスサイドの優位性に関する研究において、多角的な分析からもすべての面においてサービスサイドの優位性が認められたとされる。（表ら，1973）。このことから、試合を有利に運ぶ為には、サービスゲームをキープすることが、最も効果的であると考え、特に 1st サービスの確率が勝敗に関わるのではないかと考えられる。これまでのサービスの研究において、解析や、スピードに関する研究が主であり、1st サービスの確率と勝敗に関する研究は少ない。そこで、本研究において大学生テニスの最高峰である、ユニバーシアード・ベオグラード大会において、大学生世界トップレベルでのシングルス全試合の 1st サービスの確率のデータを収集し、勝敗との関係を明らかにすることを目的とする。

方 法

2009年 7 月にセルビアで開催された、ユニバーシアード大会男子シングルス計63試合の結果とデータの中から、全試合の 1st サービス（各セット）の確率を抜粋し集計した。

統計処理

両郡間の平均値の差の検定には、対応のある t-test を用いた。尚、統計処理の有意性は危険率 5 %未満で判定した。

結 果

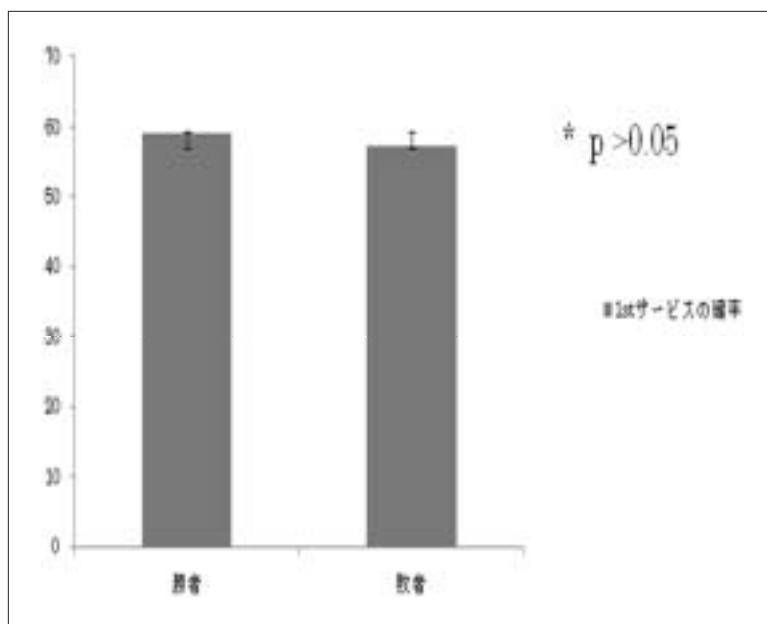


Table 1 1st サービスの確立 (1set)

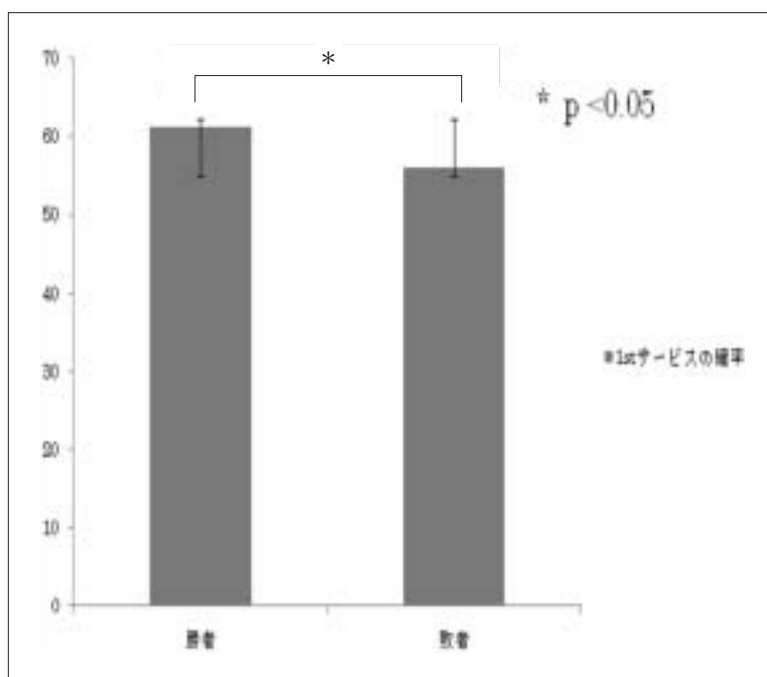


Table 2 1st サービスの確立 (2set)

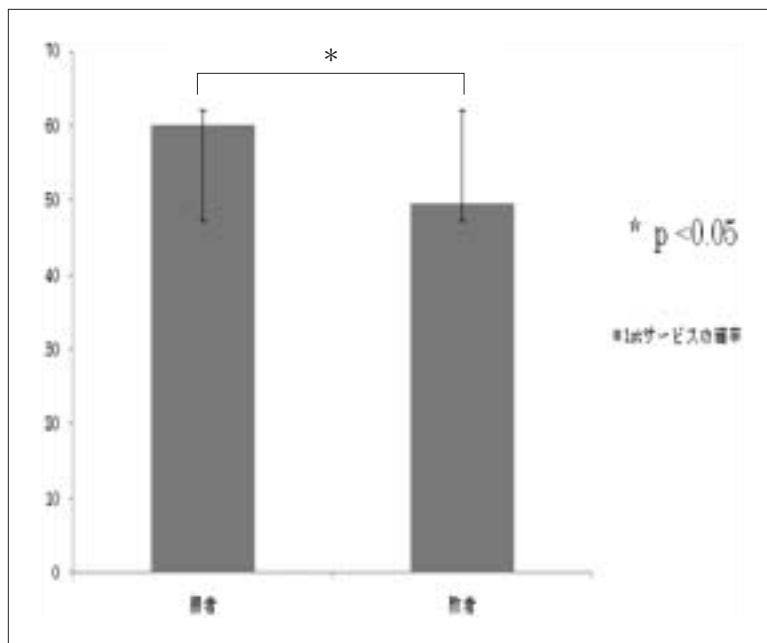


Table 3 1st サービスの確立 (total)

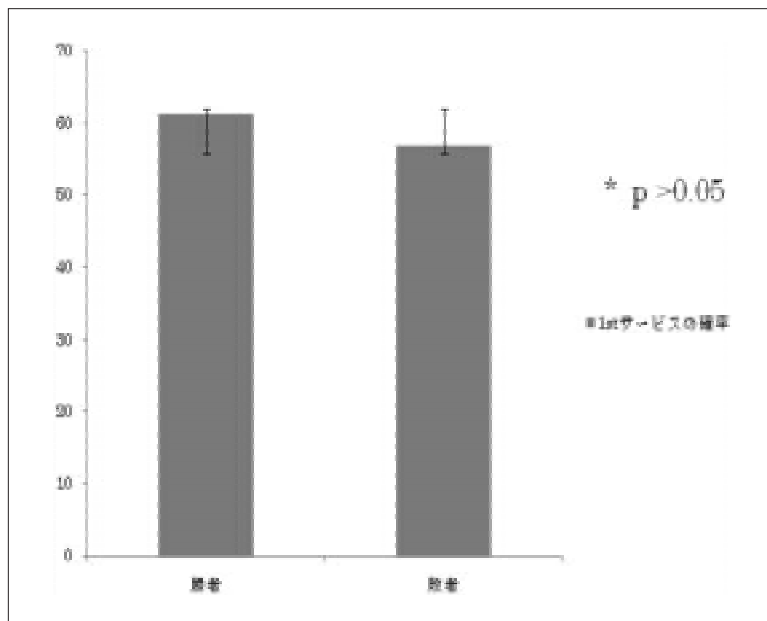


Table 4 1st サービスの確立 (3set)

Table 1～Table 4 は、勝者と敗者の 1st サービスの確率の比較である。Table 1 の 1 セット目の 1st サービスの確率は、勝者と敗者とでは有意な差は見られなかった。Table 2 の 2 セットにおいては、1st サービスの確率は、勝者と敗者とで有意な差が見られた。Table 3 の total の 1st サービスの確率は、勝者と敗者とで有意な差が見られた。最後の table 4 の 3 セットの 1st サービスの確率は、勝者と敗者とでは、有意な差は見られなかった。

考 察

以上の結果から、ユニバーシアード・ベオグラード大会シングルス本戦のレベルにおいて、Total 及び、2set での 1st サービスの確率が高いほうが試合を有利に進めることが結果として表れた。このことから、サービスゲームをキープする上で、1st サービスの確率というのは、試合を有利に運ぶ上で重要な要素の一つであることが示唆された。また、1set 及び、3set において、有意差が見られなかったことについては、他の要因が考えらるのではないだろうか。今回はクレイコートということで、他のサーフェイスよりも、1 ポイントにかかる時間が長い。ということは、サービスの良し悪しよりも、その次の展開であるストローク戦において主導権を握るということが勝敗に左右するとも考えられるからである。今後の検討課題として、他の要素である 1st サービスでのポイント取得率、1st サービスでのポイント取得率、また、他のカテゴリーや、サーフェイスにおいても同様の調査をすることである。また、試合においてレベルが上がって行けば、確率を上げる為に入れるだけのサービスでは、相手に攻撃されてしまう為、コースや、球種、スピード、相手に読まれないことを目標課題とし、普段の練習に取り組むことが重要であると考え。また、実戦レベルにおいては、1st サービスの確率が高い方が、勝敗を決める要素の 1 つであることが明らかになった。

引用文献

- 1) 田邊智：テニスサーブにおける上肢筋活動について、大阪体育大学大学院修士論文集 14-18, NO2, 1994

参考文献

1. 表孟宏：硬式テニスの研究（3）・サービスの優位性についての分析的研究 松陰女子学院大学・松陰短期大学学術研究会, 15号, 1973
2. 西島吉昭典, 佐々木美雄, 小倉英司, 清水信行：硬式テニスのサービスに関する一考察（第3報）日本体育学会大会号（31）pp.642, 1980
3. 浜田吉治郎, 中山厚生：テニスのシングルスにおけるプレー・スタイルに関する研究－関西学生男子プレーヤーの意識について－ 近畿大学健康スポーツ教育センター, pp 1-14, 2004
4. Schonborn：ショーンボーンのテニストレーニング BOOK, ベースボールマガジン, 2007
5. The25th-Universiade Belgrade2009-tennis-Bulletin, NO1-NO8, Results
6. 宮地弘太郎：ラリーの主導権を握るショットに関する研究～世界トップレベル選手を対象として～関西国際大学研究紀要2008, 189-196